

めざす地域学校像



学校が元気！

地域も元気！

総論編

(H29.5 作成)

子供

- 子供たちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯対策等により、安全・安心な生活ができます。

教職員

- 地域の理解と協力を得た学校運営が進みます。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 子供と向き合う時間が確保されていきます。
- 特色ある学校づくりが進みます。

保護者

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子供を育てる安心感が高まります。
- 保護者同士や地域の方々との人間関係が深まります。

地域

- 自己の経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながります。
- 学校が地域とつながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が強まります。

◆地域と学校が連携するための4つのポイント

— 地域と学校が協働で —

① 目標やビジョンの共有

地域や学校の実態をもとに、目指す学校・子供・地域などの姿やその達成のための具体的方法、改善策を共に考えます。

視点B；持続可能な地域へ

視点B；コミュニティの強化

④ 成果や課題の共有

地域と学校ができるだけ見える形で成果や課題を共有し、次への実践（活動）につなげます。



② 組織や連携のしくみの確認

既存の組織や取組が、目標やビジョンの実現のために効果的かどうかを検討します。

③ 役割を明確にした取組

地域や学校の一人一人が当事者意識をもち、できることを積極的に行います。

岩手県では、これからのふるさとの未来を担う人づくりとあらゆる世代の人々の幸せのために、社会全体で子育てを行うことをめざしています。（岩手県ふるさと振興総合戦略 H28.12 改定）

また、今般の学習指導要領改訂（H29.3）に伴い、「社会に開かれた教育課程」が明確に示されました。

その中では、「教育課程を介して目標を社会と共有すること」「地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりすること」が重要であるとされています。

したがって、これまで岩手で行ってきた、「教育振興運動」「いわて型コミュニティ・スクール」を柱に、地域と学校が実態に応じたより適切で効果的な連携を進め、一部に負担が偏るようなことがないよう持続的に子供を育てていくことが求められます。

学校のパートナー（地域）



婦人会

病院

企業

警察

開かれた学校

高齢者団体

文化・芸術団体

子ども会

スポーツ団体

公民館・市民センター

自治会・町内会

より適切で効果的な連携を進める

教育振興運動

コミュニティ・スクール

※3 「地域学校協働活動」の積極的な活用

視点E-U；地域で子供を育てる

地域

視点E-I；学校の変革

※1：県内では、小・中学校及び義務教育学校のみならず、市町村によっては、幼稚園や高等学校においても地域学校連携の趣旨を踏まえた取組が進められています。

※2：これまで岩手で推進してきた「いわて型コミュニティ・スクール」と文部科学省が進める「コミュニティ・スクール」の両方を意味します。

※3：「地域学校協働活動」とは、登下校指導、校庭整備、各教科の学習支援、地域の資源回収、地域伝統行事への参加等、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。教育振興運動の内容もこれにあたります。これらの活動は、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指しています。